

検査精度管理学

責任者：谷口 智也
学年・学期：第2学年・後期

単位数：1単位(15時間)

◆一般目標(GIO)

臨床検査技師として必要な検査精度管理学の基礎知識と考え方を修得する。ルーチン検査で必要となる精度管理を理解し、実施出来るようにする。

◆到達目標(SBOs)

1. 検査における精度管理の必要性を説明することが出来る。
2. ISO, リスクマネジメント, インシデントについて述べる事が出来る。
3. 標準化、標準物質、トレーサビリティについて説明することが出来る。
4. 系統誤差、偶発誤差について述べる事が出来る。
5. 正確度、精密度について説明することが出来る。
6. 標準偏差、変動係数、再現性、回収試験について計算し説明できる。
7. 相関係数、最小自乗法と回帰式について計算することが出来る。
8. 正規分布、対数正規分布について説明できる。
9. 許容誤差と管理限界について説明できる。
10. 外部精度管理と内部精度管理について説明できる。
11. コントロール血清、プール血清について述べる事が出来る。
12. x-R管理図について説明でき実施できる。
13. 他の管理法(累積和法、基準値平均法など)について説明できる。
14. ROC曲線、カットオフ値について説明できる。
15. 感度、特異度について説明することが出来る。
16. 項目間チェック、検査法の評価について述べる事が出来る。

◆学習方法

教科書、プリントによる対面式授業を基本とし、途中演習・解説を行う。

◆評価方法

国家試験形式により定期試験の点数で判定する。

◆教科書

臨床検査学講座 『検査総合管理学』 医歯薬出版(株)

◆その他

授業態度、出席等を加味する。

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	検査室と精度保証 標準化	ISO、リスクマネジメント、インシデント 外部委託(外注・FMS・ブランチラボ)	谷口
2	トレーサビリティ	緊急検査、POCT、OTC検査 毒劇物、高圧ガス、バイオハザードマーク分類 標準物質	
3	真値と誤差 正確度・精密度	系統誤差と偶発(然)誤差 再現性、回収試験、標準偏差、変動係数 相関係数、回帰直線	〃
4		正規分布、対数正規分布、基準範囲	
5	許容誤差と管理限界 外部精度管理	Tonks及び北村の許容限界と管理限界 コントロール血清・プール血清 正確さの評価、精密さの評価	〃
6	内部精度管理	外部精度管理の種類と考え方 \bar{x} -R管理図法、累積和法、マルチルール管理法、 臼井法、 $ R/\bar{x} $ 法(新谷法)、Hoffmann法、 基準値平均法など	
7	ROC曲線	ROC曲線とカットオフ値	〃
8	カットオフ値	感度と特異度、尤度比、オッズ 判定基準、診断基準、パニック値	
9	検査法の評価	検査法の評価	〃
10	まとめ	臨床判断基準 演習、解説フィードバック	